

群 教 セ	F08 - 01
	平23.243集

# 仲間規範意識を育てる学級づくり

— 望ましい人間関係づくりと

自発的、自治的な学級風土づくりを通して —

長期研修員 金子 茂雄

## 《研究の概要》

本研究は、誰もがよりよい学校生活を送れるように、友達とよい影響を与え合い、自分たちで望ましい判断をして行動しようとする仲間規範意識を育てることを目指したものである。友達との交流のよさを体感する活動を通して望ましい人間関係づくりを行うとともに、友達や学級のことを考える活動を通して自発的、自治的な学級風土づくりを行う。その結果、仲間規範意識が育てられることを実践を通して明らかにした。

**キーワード** 【人間関係 中学校 規範意識 仲間規範意識 自治的な学級 合唱】

## I 主題設定の理由

社会の変化や家庭の変化に伴い、生徒指導にかかわる課題も多様化、複雑化する中で、問題行動の未然防止や早期解決が求められている。一昨年発行された生徒指導提要では、「都市化や少子化、情報化などが進展する中で、社会全体で様々な課題が生じており、また児童生徒の問題行動の背景には、規範意識や倫理観の低下が関係している」と示されている。また、改正教育基本法第6条では、「教育を受ける者が、学校生活を営む上で必要な規律を重んずる」と示されている。このことから、子どもたちの教育には、規範意識を育てることが必要であると考えられる。

中学生の時期は、思春期に入り、自我の目覚めや心身の発達により、自主・独立の要求が高まり、自己内省をし始める時期である。その一方、自我の発達はまだ未熟な面もあり、親や教師の言葉や評価よりも仲間同士の言葉や評価を意識する度合いが急激に強まり、仲間同士内の規範意識（以下、仲間規範意識）が、つくられる。そのため、望ましい仲間規範意識を育てることが必要であると考えられる。

生徒の学校生活の基盤は、学級である。学級の生徒全員が、友達や学級のことを考え、よりよい学校生活を送るために望ましい行動を意識することで、仲間規範意識は育っていく。よりよい学校生活を送ろうとする気持ちの基盤となるものは、友達から認められ、自分の居場所や居心地のよさを体感し、友達のことを大切にしたい、気遣いたい、協力したいと思う態度である。これを育成するには、他者理解力、協力性、思いやりの心、連帯感を養う望ましい人間関係づくりが必要であると考えられる。また、自分たちで学級をよりよくするために、目標や改善・充実・発展などを考え、話し合おうとする態度も基盤となる。この育成には、学級の一員としての意識、学校生活向上意識、問題への対応力を養う自発的、自治的な学級風土づくりが必要であると考えられる。

中学生という時期は、自分たちが納得しなければ、仲間規範意識の内面化を図ることは難しい。そのため、教師の一方的な指導や価値観の押しつけではなく、生徒一人一人が実際に友達との交流のよさを体感する活動を通して望ましい人間関係をつくることと、友達や学級のことを考える活動を通して自発的、自治的な学級風土をつくることが大切である。

望ましい人間関係づくりと自発的、自治的な学級風土づくりを行うことで仲間規範意識を育てることができ、いじめや不登校などの問題行動の未然防止につながると考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

友達との交流のよさを体感する活動を通して、他者理解力、思いやりの心、協力性、連帯感を養い、友達や学級のことを考える活動を通して、学級の一員としての意識、学校生活向上意識、問題への対応

力を養う。このことにより、望ましい人間関係と自発的、自治的な学級風土がつくられ、仲間規範意識を育てる学級づくりに有効であることを実践を通して明らかにする。

### Ⅲ 研究の見通し

- 1 学級活動と帰りの会において、友達との交流のよさを体感する活動を行うことで、他者理解力、思いやりの心、協力性、連帯感を養い、望ましい人間関係をつくることができるであろう。
- 2 望ましい人間関係づくりを行うとともに、学級活動と道徳、帰りの会において、友達や学級のことを考える活動を行うことで、学級の一員としての意識、学校生活向上意識、問題への対応力を養い、自発的、自治的な学級がつくられ、仲間規範意識が育つ学級になるであろう。

### Ⅳ 研究の内容

#### 1 「仲間規範意識を育てる」について

広辞苑によると規範とは、「手本、模範、判断・評価または行為などのよるべき基準」とある。中学生の規範となるものとして、親規範、教師規範、仲間規範、社会規範などがある。中学生の時期は、仲間同士の言葉や評価を意識する度合いが急激に強まることで仲間規範の影響が多い。栃木県総合教育センターの「平成22年度栃木の子どもの規範意識調査研究報告」(2011)では「仲間規範の方が、先生規範よりも問題行動経験を大きく抑制している。特に、中学生以降はこの傾向が強く、問題行動を抑制する指導のアプローチとして、集団や友達を介した指導を通して仲間規範を高めることが有効である」と報告している。自主・独立の要求が高まり、仲間同士の言葉や評価を意識する中学生にとっては、仲間同士内でつくった規範は、大きな意味を持つ。そして、自分たちでつくった規範を自分から守ろうとする。そのため、仲間規範意識を育て、よりよい規範意識に育てることが大切であると考えられる。尚、「仲間規範意識を育てる」とは、「誰もがよりよい学校生活を送れるように、友達とよい影響を与え合い、自分たちで望ましい判断をして行動しようとする意識を育てる」と考えた。

#### 2 「望ましい人間関係」について

河村(2007)の調査では、規範意識と受容感は、関連があると報告されている。そこで、仲間規範意識を育てるためには、よりよい学校生活を送れるように友達とよい影響を与え合うための「望ましい人間関係づくり」が必要であると考えた。「望ましい人間関係」とは、「生徒一人一人が学級の一員として役割と責任を果たし、互いに尊重し、よさを認め、よさを発揮し合い、協力し、助け合える人間関係」である。互いに尊重し、よさを認め、よさを発揮し合うためには、他者理解力が必要である。協力し助け合えるためには、思いやりの心や協力しようとする態度を育てることが必要である。そのため、友達との交流のよさを体感する活動を通して、他者理解力、思いやりの心、協力性、連帯感を養うことで望ましい人間関係づくりができると考えた。

#### 3 「友達との交流のよさを体感する活動」について

実際に自分で友達との交流のよさを体感することで、自分から望ましい人間関係を築こうとする態度を養うことができると考えた。

合唱コンクールは、学級全員の心を一つにして協力して歌い上げる集団的表現活動であることから、学級全員で成就感や連帯感を味わえ、人間関係を深めることができる。また、目標に向かって練習することで、問題点が明らかになり、問題点や改善点を話し合って練習し、全員で協力することのすばらしさを体感できる。そこで、合唱コンクールを友達との交流のよさを体感する活動の柱とする。

友達の長所を見つけて伝え合う活動、友達を応援する活動を通して、友達から長所や頑張りなどを認めてもらえてうれしい気持ちを実感できる。その結果、自分から友達の長所や頑張りなどを見付けようとする態度を養い、他者理解力や思いやりの心を養うことができると考えた。

#### 4 「自発的、自治的な学級風土づくり」について

中学生は、自主・独立の要求が高まり、自分たちに必要なものであると実感し、自分たちの意志で決定したものであれば、その決定したことに対して責任を持つようになり、誠実に実行する。自分たちで学級をよりよくするために望ましい判断をして行動しようとする意識を育てるためには、「自発的、自治的な学級風土づくり」が必要である。「自発的、自治的な学級風土づくり」とは、「学級生活の改善・充実・発展などに向けて、自分たちで考え、話し合い、そして自分たちで決めたことに対して積極的に協力して取り組める風土づくり」である。学級をよりよくするために話し合うためには、学級の一員としての意識、学校生活向上意識を養う必要がある。学級における生活上の諸問題を考え、解決するための具体的な行動を考えられるためには、問題への対応力を養う必要がある。友達や学級のことを考える活動を通して学級の一員としての意識、学校生活向上意識、問題への対応力を養うことで自発的、自治的な学級風土づくりができると考えた。

しかし、生徒の自発的、自治的な活動意欲が高まるとはいえ、生活体験や社会体験もまだ十分ではなく、自分の考えにも十分に自信をもてない時期である。そのため、教師の適切な指導や個別的な援助なども必要である。

#### 5 「友達や学級のことを考える活動」について

自分たちの生活に必要なことを全員で考えることが、自発的、自治的な学級風土づくりの基盤となる。学級をよりよくするために必要なルールや目標を自分たちで考え、話し合い、決めたルールや目標を意識して生活することで、学級の一員としての意識、学校生活向上意識を養うことができると考えた。ルールや目標を定着させるために、帰りの会で振り返りを行う。また、身近な問題の解決方法の粗筋を考えた「台本作り」を行うことで問題への対応力を養うことができると考えた。

#### 6 「台本作り」について

自発的、自治的な学級風土づくりのためには、学級における生活上の諸問題への対応や解決の仕方を考えられる態度が必要である。諸問題への望ましい対応や解決の仕方を考えるためには、道徳性が関係する。学習指導要領解説道徳編では、道徳性を「人間としての本来的な在り方やよりよい生き方を目指してなされる道徳的行為を可能にする人格的特性であり、人格の基盤をなすものである。それはまた、人間らしいよさであり、道徳的諸価値が一人一人の内面において統合されたものといえる」と示している。道徳性が伴った問題への対応力を養うために、「台本作り」を行う。

「台本作り」は、学級における生活上の諸問題を解決するまでの流れを頭の中で整理して文章で表現して、問題への対応力を養う活動である。この台本作りは、林(2008)が提唱している道徳教育プログラムであるモラルスキルトレーニングの考え方を取り入れている。モラルスキルトレーニングは、望ましい対人関係を作るための技能としてのソーシャルスキルに、道徳性を身に付けさせることを加味したスキルトレーニングである。道徳の内容項目を考慮した資料をもとに、実際にロールプレイをして、登場人物の心境を考え、理解する。そして、演じた感想を友達と述べあい、意見を深める。次に、道徳的に望ましいよりよい行動を考えて再びロールプレイを行う。そして、最後に感想を述べあい、道徳的な態度を養うものである。

諸問題を解決するまでの台本を作って友達とロールプレイを行うことで、友達や学級のことを深く考えられると考えた。台本作りの題材は、生徒にとって身近な問題であることが望ましい。そのため、今回の実践では、合唱コンクール練習でのトラブルといじめの問題を取り上げる。

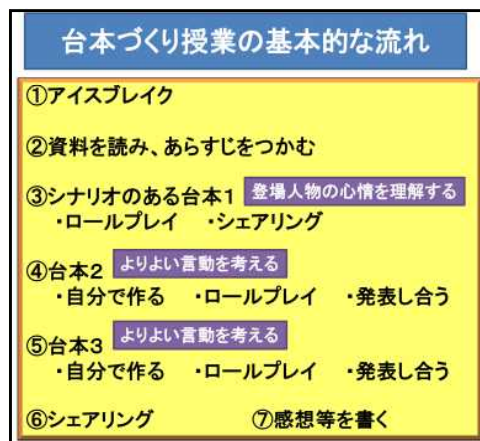


図1 台本づくり授業の基本的な流れ

## 7 「絆シート」と「絆通信」について

広辞苑によると「絆」とは、「動物をつなぎとめる綱。断つにしのびない恩愛」という意味がある。望ましい人間関係をつくり、生徒と生徒、生徒と教師の間に信頼ができることを願い、「絆」という言葉を使った。

「絆シート」は、「友達のよさや頑張り探し週間」「合唱練習を頑張っている人探し週間」に、友達の長所や頑張りを見付け、記入するシートとして作成した。この絆シートを直接本人に手渡すことで望ましい人間関係を育てていくことをねらいとしている。

「絆通信」は、望ましい人間関係づくりと自発的、自治的な学級風土づくりの補充、深化、発展のために発行するものである。絆通信は、生徒のよさや授業のねらいや感想などを記載した学級通信である。授業中には知ることができなかった友達のよさや意見を知り、生徒の考え方の幅を広げ深めていくことをねらいとする。

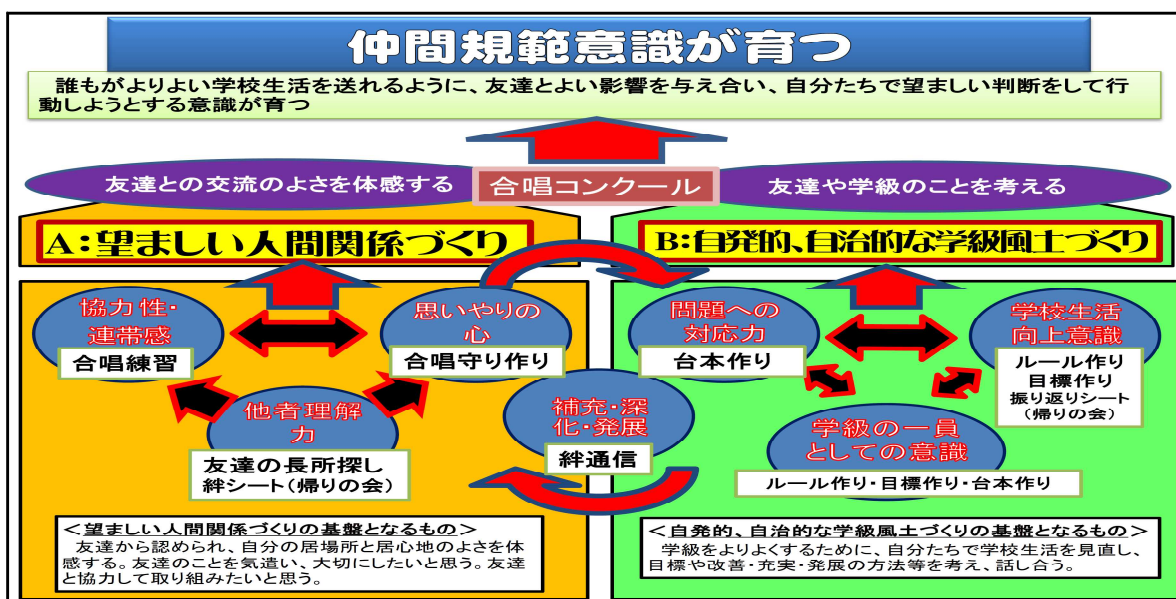


図2 研究構想図

## V 研究の計画

### 1 実践計画 分類 A：望ましい人間関係づくりについての授業 B：自発的、自治的な学級風土づくりについての授業

対象	研究協力校 中学校 第2学年34名				
期間	平成23年10月3日～11月11日	7時間	時間	学級活動5時間 道徳2時間 帰りの会12回	
分類	月日	主題	ねらい	養いたい力	刷り会
A	10/3	実践1 学級活動 「友達の長所探し」 ※友達の長所探し	○友達のよさを見付け、他者理解力を育てる。	・他者理解力 ・思いやりの心	10/4～10/14 (随2回 全4回) 「友達の長所探し」
B	10/12	実践2 学級活動 「学級を良くするためのルールブックを作ろう」 ※ルール作り	○ルールやマナーの意義を理解し、よりよい学校生活を送るために必要なルールやマナーを作り、学級の一員としてルールやマナーを守ろうとする意識を育てる。	・学校生活向上意識 ・学級の一員としての意識	(他者理解力) A ※絆シート使用
B	10/17	実践3 学級活動 「感動を与える合唱を目指そう①合唱目標作り」 ※目標作り	○合唱コンクールの意義を理解し、合唱コンクールの学級目標と個人目標を作り、学級の一員としてよりよい合唱に仕上げようとする意識を育てる。	・学校生活向上意識 ・学級の一員としての意識	10/17～10/27 (随2回 全4回) 「合唱練習を頑張っている人探し」
A	10/24	実践4 学級活動 「感動を与える合唱を目指そ	○学級全員に対して合唱コンクールに向けたメッセージを書き、合唱守りを作るこ	・思いやりの心 ・協力性・連帯	

		う②合唱守り作り ※合唱守り作り	とで友達を思いやりの心、協力して取り 組もうとする意識と連帯感を育てる。	感	(他者理解力) A
B	10/19	実践 5 道徳 「クラスの一員として行動し よう」 ※台本作り 内容項目「 <small>集団生活向上 役割と責任</small>	○学級の問題を解決するには、一部の人 に任せるのではなく自分の役割と望ま しい言動を考えることで、学級の一員 としてよりよい学級づくりに参画する 意識を育てる。	・問題への対応力 ・学級の一員と しての意識 ・思いやりの心	※絆シート使用 10/19～11/16 (随2回 全4回) 「ルールブッ クと合唱 目標を振り 返る」 (学校生活向 上意識、 学級の一 員としての 意識)
	10/26	実践 6 道徳 「見て見ぬふりはしない勇気 をもとう」 ※台本作り 内容項目「 <small>議論・証・評価 思いやり</small>	○いじめられている友達の気持ちと自分が 行うべき言動について考え、学級の一員 として思いやりの心や正義感を持ち、見て 見ぬふりはしない態度を育てる。	・問題への対応力 ・学級の一員と しての意識 ・思いやりの心	B
A	11/ 2	合唱コンクール	○合唱学級目標達成に向けて練習の成 果を発揮することで友達とやり遂げ た成就感と連帯感を味わう。	・連帯感	※振り返りシ ート使用
A	11/11	実践 7 学級活動 「今までを振り返り、今後に ついて考えよう」	○合唱コンクールまでの取組を振り返り、 成果を確認することで全員でやり遂げた 成就感、連帯感を味わい、より一層よい 学級にしていこうとする自主性を育てる。	・連帯感	
B	11/11	実践 7 学級活動 「電車のマナーを考えよう」	○電車内でのマナーを理解し、公共心を養 い、学校の一員として意識する。	・学校の一員と しての意識	

## 2 検証計画

	研究の見通し	観 点	方 法
A	学級活動と帰りの会において、 友達との交流のよさを体感する 活動を行うことで、他者理解力、 思いやりの心、協力性、連帯感 を養い、望ましい人間関係をつ くることができるであろう。	合唱目標と合唱守りをつくって合唱練習を 行ったことで、協力性や思いやりの心の気持 ち、連帯感を育てることに有効であったか。 望ましい人間関係をつくるために、友達の 長所や頑張りを見付け、絆シートと絆通信で 伝えることは他者理解力に有効であったか。	実践前後の ・「Q-U」 ・「仲間規範意識 に関するアンケ ート」(自作)
B	学級活動と道徳、帰りの会に おいて、友達や学級のことを考 える活動を行うことで、学級の 一員としての意識、学校生活向 上意識、問題への対応力を養い、 自発的、自治的な学級がつくら れ、仲間規範意識が育つ学級に なるであろう。	自発的、自治的な学級風土をつくるために、 学級の様子を見直し、自分たちの学級をよりよ くするためのルールブック作りと合唱コンク ールの意義を考えて合唱学級目標を作り、振り返 りシートで振り返ったことは、学級の一員とし ての意識、学校生活向上意識を育てることに有 効であったか。また、学級の問題を考える場面 を設定し、それを解決するための具体的な行動 を考えることで問題への対応力を養うことに有 効であったか。	記述の読み取り ・ワークシート ・絆シート ・ルールブック振 り返りシート  ・生徒の観察  ・教職員への聞き 取り調査

## VI 研究の結果と考察

### 1 授業実践

#### (1) 学級活動「友達の長所探し」 <他者理解力を育てる>

##### ① 活動記録

友達のよさを付せん紙に書き、班の中で発表し合った。最初は、何を書いたらよいのか困っていた生徒も、友達の発表を参考にして書けるようになっていった。また、「友達の長所探し参考シート」を参考にしながら書いている生徒も多かった。次に、友達のよさを整理して、ワークシートに記入して本人に渡した。自分のよさが書いてあるワークシートが手渡されたときは、どの生徒も真剣に読んでいた。最後に、ワークシートを読み、どのような気持ちになったかを振り返り、班の人に今の自分の気持ちを伝え合った。

## ② 考察

表1 生徒のワークシートの感想からの読み取りより (数字は人数、回答数33人、複数回答)

自分や友達よさを知ることができた	19	うれしかった	15	知ることができてよかった	10
授業が楽しかった	8	友達を大切にしたい	4	これからもよさを見つけていきたい	3

30人の生徒が、肯定的な感想を書いていた。半数以上の生徒が、この授業を通じて自分のよさや友達よさを知ることができたと考えられる。友達からよさを認めてもらったことでうれしい気持ちになり、友達との望ましい人間関係づくりにつながったと考えられる。よさを知ることができてよかったと思っていることから、これからも友達よさを探そうという気持ちにもつながり、他者理解力を育てることができたと考えられる。

### (2) 学級活動「学級をよくするためのルールブックを作ろう」 <学級の一員としての意識、学校生活向上意識を育てる>

#### ① 活動記録

学級をよりよくするためのルールやマナーを三つの場面(「授業中」「休み時間や放課後」「給食や掃除などの仕事を行う時間」)に分けて考えた。一人一人が、ルールを考え、付せん紙に一場面につき一枚書いた。できるだけ「〇〇しない」というような禁止ではなく、よりよい行動が行えるように「〇〇する」という表現で考えさせた。「重要かどうか」「守られているかどうか」を考えて付せん紙を貼り、発表し合った。その後、一番必要なルールは何であるかを話し合っ一つにまとめた。付せん紙を台紙に貼るときに、どこに貼ったらいいか悩んでいる生徒がいたが、班の友達のアドバイスで貼ることができていた。班の意見を発表する場面では、同じような意見が多く出された。班で一つに選んだ意見が重なるということは、それだけ多くの人が思っていることであり、大切なルールであることを確認した。

#### ② 考察

表2 生徒のワークシートの感想からの読み取りと決定したルールブック (数字は人数、回答数30人)

ルールを守りよい学級にしたい	11	学級のよいところとよくないところを知ることができた	8
学級に必要なルールがたくさん出た	6	ルールを決めることはいいことだ	6
ルールやマナーは大切だと思った	3	その他(意見を出し合うことは大切などの感想を書いているなど)	
【2年〇組のルールブック】			
・あいさつをしよう ・おしゃべりをせず発言をちゃんと聞くようにしよう ・仕事をするときは協力しよう ・サボらず、しっかり自分の仕事をやり遂げよう ・仲間外れはせず、一人にいる人を見かけたら声をかけよう			

学級をよくするためには、今の学級の様子を見直し、全員で確認することは大切であると思っっている生徒が大多数であった。K J法で学級のよい点と改善すべき点を見直し、自分たちで学級に必要なルールをつくったことで、「みんなが思っ決めたルールだから、ルールを守って学級をよくしていこう」とする学校生活向上意識を育てることができたと考えられる。

### (3) 学級活動「感動を与える合唱を目指そう」 <学校生活向上意識、連帯感を育てる>

#### ① 活動記録

合唱コンクールの意義を考えながら合唱学級目標を考え、ワークシートに記入した。班になって自分の考えた目標を発表して、班で一つにまとめ、全体の前で発表した。出された意見の中からキーワードとなる言葉を見付け、そのキーワードとなる言葉をつなぎ合わせて、「最後まで、みんな悔いなく、一生懸命思い出に残るように、絆を深めながら、一つになって歌おう」という合唱学級目標を決めた。次に、その学級目標を達成するための個人目標を自分の役割、長所を考えて作った。

次の時間、合唱守り作りを行った。縦4cm、横5cmの紙に、学級全員に「いつも黙々と歌っているA君は学級に貢献しているよ」などというメッセージを書き、本人に手渡した。友達からもらったメッセージを合唱守り袋に入れて完成させた。和気あいあいとした雰囲気で行われ、友達からメッセージを渡されると皆真剣に読んでいた。

#### ② 考察

合唱コンクールの意義を考えさせたことで、全員でどのような態度で練習に臨めばいいだろうかという視点で目標を考えることができた。目標作りの後は、整列が早くなり、互いに声をかけて合唱練習を行うようになった。目標作りや合唱守り作りを通して、「全員でつくった目標に向かって全員で一生懸命頑張ろう」などという学校生活向上意識、連帯感を育てることにつながったと考えられる。



(4) 道徳「クラスの一員として行動しよう」 <問題への対応力、学級の一員としての意識を育てる>

① 活動記録

最初に、よりよい学級をつくるには、相手のことを考えることが大切であることを確認した。教師が資料「指揮者」を読み、台本1をロールプレイした。ロールプレイは、初めてということもあり、照れやふざけも見られたが、全体的に場面を想像しながらしっかり行えていた。次にのび太君、ジャイアン、しずかちゃんを例にしてアサーティブな話し方を学び、アサーティブな表現を練習した。誰がどんな言い方をすれば2年B組が一致団結して合唱練習できるかを、アサーティブな言い方を参考にしながら考えて台本2を作った。初めての台本作りであったため、じっくり考えながら作っていた。授業中に紹介できなかった台本を「絆通信」で紹介した。

② 考察

表3 生徒のワークシートの感想と作成した台本から (数字は人数、回答数34人)

優しい言葉がけをできるようにしたい 7	発言一つで雰囲気や相手の気持ちが変わると知った 7
みんなでよい合唱にしたい 4	誰かが先に声を出さなくてはいけない 2
自分たちも似たところがあるので改善したい 2	人の気持ちを考えて行動すれば友達も増えるなど
香穂「男子が歌わないのは正樹のせいじゃないでしょ？ その言い方はよくないよ」	
真奈美「うん。ごめんなさい。でも、合唱は女子だけじゃ完成しないんだよ」	
大作「俺もそう思う。だから歌ってみようぜ」 和也 「俺は歌うよ。みんなも歌うよな？」	
男子「おう！」 ナレーター「みんなは人が変わったように歌い出しました」	
みずぎ「せっかくみんなで集まったんだから、まじめに練習しようよ」	
光 「でも俺たちは上手く歌えないし、目立ちたくないんだよ」	
百合「クラスの仲間なんだから、みんなを信じて歌ってみようよ。上手く歌えなくても練習すればいいじゃない。練習しないといつになっても上手くならないよ」	

アサーティブな表現を学んだことで、相手のことを考えながら話す大切さを考えることができた。生徒は合唱練習を通して、集団で行動するときは、自分勝手な言動はよくないと理解している。しかし、具体的な問題解決方法はあまり考えてこなかったことは、今回の台本作りでの戸惑いから感じられる。今回のようにすぐには解決できない難しい問題でも、自分なりの解決方法を台本にして考えることで、学級の一員として学級全体のことを考えながら問題を解決しようとする、問題への対応力を養うことができたと考えられる。

(5) 道徳「見て見ぬふりはしない勇気をもとう」 <問題への対応力、学級の一員としての意識を育てる>

最初に、資料「こむすびまん」の粗筋をつかみ、台本1を友達とロールプレイした。次に、いじめの加害者、被害者、傍観者（被害者の親友）の気持ちを考えた。傍観者は、仕返しが怖くて注意できないため、最初にできることは被害者の支えになるということを確認した。親友である被害者を支えるための台本2を作り、友達と読み合い、全体場で発表した。さらに、いじめが解決しないことには、被害者の心は晴れないことを確認した。加害者を注意するための台本3を作り、友達と読み合い、全体場で発表した。

② 考察

表4 生徒のワークシートの感想と作成した台本から (数字は人数、回答数34人)

いじめはよくない 9	勇気を出して注意することは大切 7	一緒にいてあげたい 3
助けてあげたいが注意できない気持ちは分かる 6	思ったことはちゃんと言える方がいい 2	
注意したい 3	やっている方はおもしろくてもやられている人は辛いことが分かった 2	
ぼくはいじめられていました。だけど、この授業をきっかけにいじめていた子もいじめないでくれました		
ナレーター 「今日も健史は、休み時間に隼人たちにからかわれたり、殴られたりして、元気がなかった」		
英二「大丈夫？ いつも僕、何も言えなくてゴメン…」 健史「どうせ僕が悪いんだ。英二のせいじゃないから…」		
英二 「それは違うよ。僕も勇気を出して隼人に言ってみる。僕も頑張る」 健史 「ありがとう」		
いつ・どんな場面 「朝の学活が終わった後。みんなの前で」		
英二「ねえ。そろそろ健史いじめのやめれば？」 隼人「はっ？ そんなことしてねーし。意味分かりません」		
英二「は？ じゃなくて、やめなよ。なんでそんなことするんだよ」 隼人「えーだって楽しいから。なっ!!お前ら」		
英二「弱いものいじめはだめだって誰かが言ってただろ」 隼人「え…。あ…。ごめん」		

台本作りが2回目であること、いじめは身近な問題であることから、生徒は加害者、被害者、傍観者の気持ちを考えながら、前回よりもスムーズに台本を作ることができていた。多くの生徒は「いじめはよくない」と答えるが、被害者でなければ自分には関係のない問題としてとらえがちである。また、これまで被害者への支え方、加害者への注意の仕方を具体的に考える機会は多くはなかったと思われる。いじめの解決は簡単なことではないが、加害者、被害者、傍観者の気持ちを考え、傍観者に視点を当てて、台本作りを行ったことで、いじめ解決までの過程を自分なりに考えることができた。生徒の感想からは、いじめはよくない、勇気を出して注意することは大切という言葉が複数見られた。このことから、台本作りを通じて、学級の一員としていじめを許さず、いじめを解決しようとする、問題への対応力を養うことができたと考える。

#### (6) 学級活動「今までを振り返り、今後について考えよう」 <成就感、連帯感を育てる>

ワークシートをもとに体育祭の後からの取組について振り返った。次に、学級のよくなったところを班で話し合い、模造紙に書いて発表し、学級全体で「絆が深まった」「ルールやマナーを意識するようになった」ことを確認した。その後、校外学習や修学旅行に向けて電車内のマナーについて、東京メトロのポスターやマナー違反アンケート結果をもとに考えた。

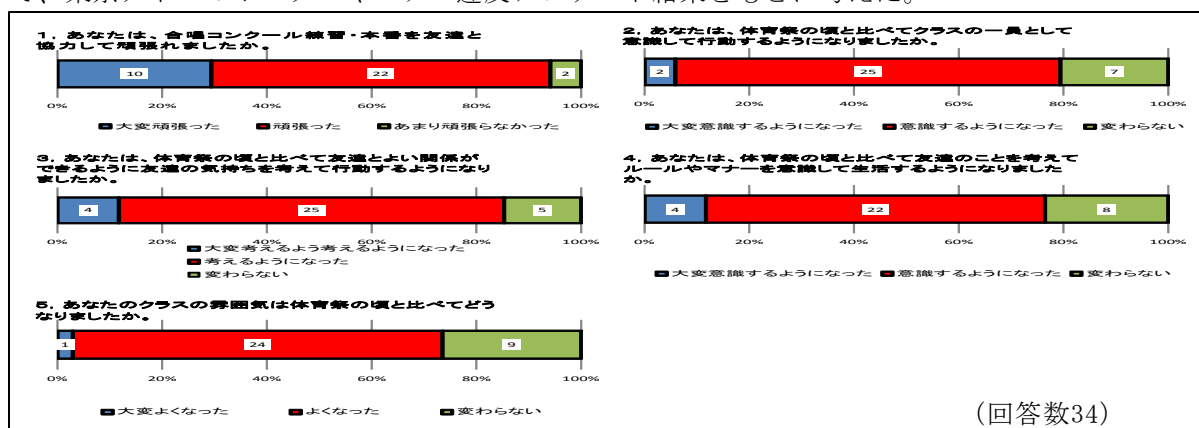


図3 ワークシート「今までを振り返り今後について考えよう」集計結果

#### (7) 帰りの会の実践 <他者理解力、学校生活向上意識の定着を図る>

##### ① 活動記録

友達のよさを見付け、伝えようとする雰囲気づくりのために、絆シートによる振り返りを火木の帰りの会で行った。また、自分たちで作ったルールブックと合唱目標を意識して生活できるように、振り返りシートを水金の帰りの会で行った。振り返りを4週間行ったことで、定着できるようになった。

##### ② 生徒の書いた絆シートより

- Aさんへ「いつもてきぱき行動してくれて、すごく頼りになるっ！ ありがとう」 Bより
- Cさんへ「ふざけている人に注意していて、なんかかっこよかった」 Dより

#### (8) 絆通信の発行 <望ましい人間関係と自発的、自治的な学級風土をつくる>

##### ① 活動記録

授業のねらい、授業の様子、友達のよさ、授業の感想、授業で作った台本などを紹介した絆通信を18号発行した。最初は、自分の感想などが紹介されることを恥ずかしがっていた生徒もいたが、ほぼ全員が紹介されていることで、少しずつ恥ずかしさは減っていたようである。授業では知らなかった友達のよさや考えが分かり参考になった、絆通信を楽しみにしていたという感想を6人の生徒が書いていた。

##### ② 生徒の書いた感想より

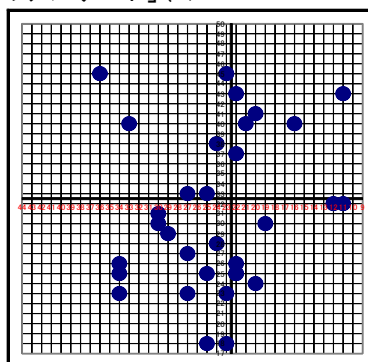
僕は絆シートのことが絆通信に載るのがとても楽しみでした。みんなが自分のことをどう思っているのかドキドキしながら楽しみにして見ていました。それと、授業で書いたセリフや感想が載るのも楽しみでした。人の書いたセリフを読んだりして、いつもすごいなと思っていました。



#### 4 事前・事後の質問紙とワークシートからの考察

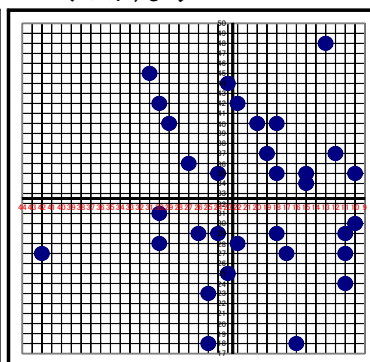
##### (1) 「いごちのよいクラスにするためのアンケート」(Questionnaire-Utilitiesテスト)より

図4、図5の実践前後の比較では、プロットされた点が右上に移動している。承認得点平均が上がり、被侵害得点平均は下がっている。これは、友達から認められ、安心した学校生活が実践前よりも送れるようになったと感じる生徒が増えたことを示している。このことから、学級内の生徒の人間関係がよくなり、学校生活に意欲的に取り組めるようになり、学級内にルールが作られ始めたと考えられる。



承認得点平均	30.5
被侵害得点平均	24.5

図4 Q-U結果(事前)



承認得点平均	32.6
被侵害得点平均	21.7

図5 Q-U結果(事後)

##### (2) 学級のルールブックと合唱目標の振り返りシートより

自分たちで決めたルールと合唱目標の自己評価では、「よくできた」と答えた生徒がすべての項目で多くなった。これは、定期的に振り返ったことで、ルールと目標を意識することができ、達成しようとする意欲が高まったと考えられる。このことから、学級の一員としての意識と学校生活向上意識が育ったと考えられる。

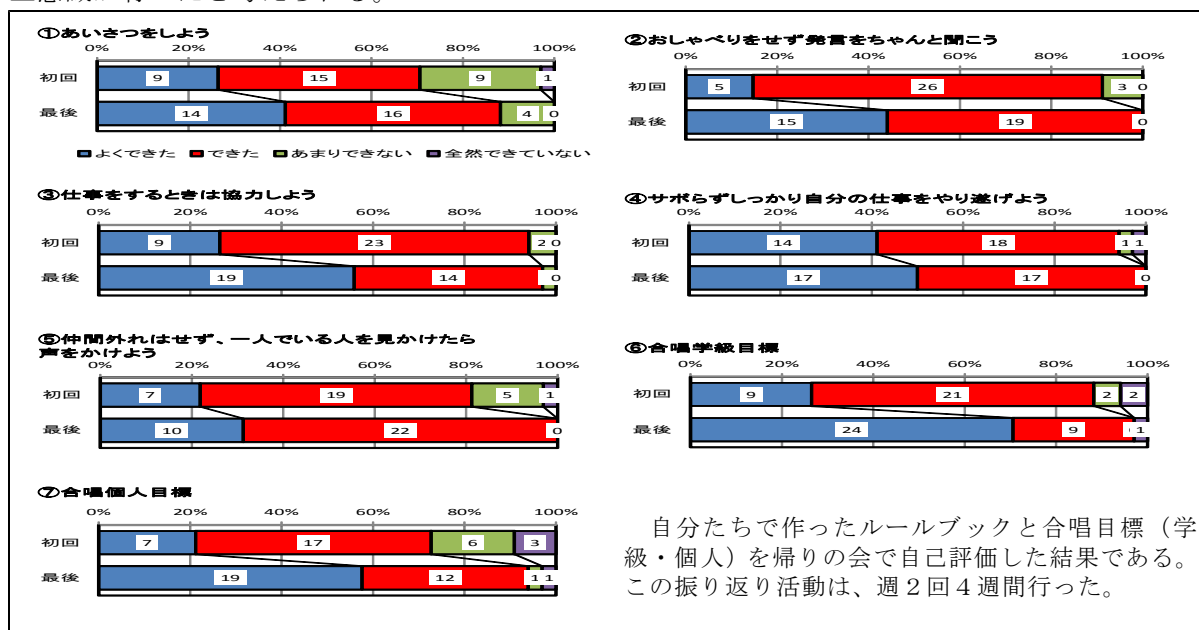


図6 振り返りシート結果

##### (3) 仲間規範意識アンケートより(自作アンケート)

表5 仲間規範意識アンケート結果(数字は、「あてはまる」と「だいたいあてはまる」を合わせた数、回答数34)

		事前	事後
人間関係	私は友達の話をもじめにじっくり聞いている	28	32
	友達はあなたの話をまじめにじっくり聞いている	24	29
	私は友達が元気がないときに励ましている	27	32
	友達はあなたが元気がないときに励ましてくれる	28	32
学級自治	私はクラスの友達と協力して取り組んでいる	29	32
	私は友達が授業中におしゃべりをしたら注意する	13	18
	私は友達が仕事をサボったら注意する	20	24

人の話をじっくり聞ける人が増え、友達を励ませる人が増えた。他者尊重や思いやる気持ちが育ったと考えられる。協力できる人が増え、よくない行為を注意できる人が増えたことは、学級をよくしようという気持ちが育ち、自治的な学級風土がつけられてきていると考えられる。

#### (4) 担任からの聞き取り調査より(実践後の生徒の変容)

##### ① 担任教師の言葉より

- 「静かにしようよ」「提出物をしっかり出そうよ」など互いに声をかけ合う姿が多くなった。
- 自分から友達に積極的にかかわるようになり、生徒同士の会話が多くなった。
- 自分の学級を好きと話す生徒が多くなった。

##### ② 考察

「提出物をしっかり出そうよ」などと声をかけるのは、相手のことを心配しているからである。また、「静かにしろよ」ではなく、「しようよ」という言葉遣いは、相手を非難するのではなく、相手や学級のことを考えてよりよい態度を望んでいるからである。友達同士の交流も増え、友達から認められ、学級の一員としての意識ができたことで、自分から友達にかかわろうとしたり、自分の学級を好きと話すことになったと考えられる。このことから、望ましい人間関係づくりの成果が見られたと考えられる。

## VII 研究のまとめ

### 1 成果

学級活動と帰りの会において、友達の長所探し、合唱コンクール練習、合唱守り作りを友達との交流のよさを体感しながら行ったことで、他者理解力、協力性、思いやりの心、連帯感を養い、望ましい人間関係をつくることができた。特に学校行事である合唱コンクールに視点を置いたことで、協力性、連帯感が強まった。

学級活動において、学級をよりよくするためのルール作りと合唱コンクール学級目標作りを行った。また、道徳の時間において、学校における生活上の諸問題への対応や解決方法を考えて台本作りを行った。学級や友達のことを考えながら行ったことで、学級の一員としてよりよい学級にしようとする意識を養い、自発的、自治的な学級風土がつけられた。

望ましい人間関係づくりと自発的、自治的な学級風土づくりを行うことで、友達や学級に対して望ましい行動をしようとする意識を育てることができ、その結果、仲間規範意識を育てることができた。

### 2 課題

合唱コンクールなどの学校行事でなくても、日常生活で協力性や連帯感などを体感できる場面や方法を検討し、年間指導計画を作成することで、仲間規範意識をより効率的に効果的に高めることができると考えられる。

問題への対応力をさらに育てるために、実態に即した課題を定期的に取り上げ、解決方法を考え、ロールプレイなどを行っていく必要がある。

ルールブックは、作って終わりではなく、随時見直し、自分たちの学級に合うものに変更していくことが必要である。また、重点目標を設けたり、軽重や期限を考えたりすることも必要である。

#### <参考文献>

- ・河村 茂雄 著 『データが語る②子どもの実態』 図書文化社(2007)
- ・栃木県総合教育センター 『平成22年度栃木の子どもの規範意識調査研究報告書(中学校)』(2011)
- ・宮城県教育研修センター 『平成20年度研究報告書 児童生徒の規範意識を高めるための一考察』(2010)
- ・林 泰成 著 『モラルスキルトレーニングプログラム』 明治図書出版(2011)
- ・明里 康弘 著 『どんな学級にも使えるエンカウンター20選』 図書文化社(2007)  
(担当主導主事 瀧川 豊宏)